



88060149

JAPANESE A1 – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A1 – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A1 – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Monday 20 November 2006 (afternoon)

Lundi 20 novembre 2006 (après-midi)

Lunes 20 de noviembre de 2006 (tarde)

2 hours / 2 heures / 2 horas

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a commentary on one passage only.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez un commentaire sur un seul des passages.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un comentario sobre un solo fragmento.

次の 1 (a) の文章と (b) の詩のうち、どちらかを選んでコメンタリー（解説文）を書きなさい。

1 (a)

ある日あなたは、もう決心はついたかとたずねた。わたしはあなたがそれまでも何回となくこの話を切りだそうとしていたのを知っていた。それにいつになくあなたは率直だった。そこでわたしも簡潔な態度をしめすべきだとおもい、それはもうできていると答えた。パルタイにはいるということは、きみの個人的な生活をすべて、愛情とい

た問題もむろんのこと、これをパルタイの原則に従属させることなのだ、とあなたは説明しはじめた。あなたは眼鏡を光らせすぎるので、そのむこうにある肉眼の表情がわたしにはよくみえない。あなたの歯ががらがらと鳴るのは、できのわるいガイコツの咬合をみるようであり、あなたは不自然なほど興奮していたにちがいない。わたしはおもわず動物的な笑いをもらした。するとあなたはわたしの手を握った。いつものようにあた

たかくて湿っぽい。多少居心地のわるいかんじだとおもう。あなたはわたしの決心を確かめようとしていたらしかった。そこでわたしも、少しばかり大げさな身ぶりをとるということによってあなたを安心させる必要があった。

パルタイにはいることを正式に許可されるためとるべきいくつかの手続についてあなたは順序だてて話した。わたしはじつのところ、ほとんどきいていなかった。こうした事務的なことがらについてあなたがしめす熱心さは、わたしにはこつけいにみえた。《経歴書》の作成が手続のヤマだとあなたはいつた。そして自分のばあい、《経歴書》はこうだったといい、あなたはぶ厚い書類の束をわたしのまえに置いた。それはなにかがうず高く堆積しているといったかんじでわたしのまえにあり、手垢と紙のいたみぐあいが、パルタイのなかをとおりぬけて厳密な審査をうけたという権威ある確かさを保証しているかのようにみえた。そこに多くの他人たちが——それが《組織》という名で呼ばれようと、わたしにはおなじことなのだが——撫でまわしたあなたの生活があるのだとおもうと、わたしは息がつまりそうなほど恥しくなる。おそらく《信じる》という赤あざのようなものがあなたの顔、そして眼までもおおっているの でなかったら、あなたにしてもその《経歴書》がこつけいなものだということに気づくはずだと思う。

わたしたちはある部屋のなかにいた。それは壁の割れはじめた汚い部屋で、途方もなく巨大なビルディングのなかの迷路の奥にあつた。あなたが最初にわたしをこの部屋に

30

連れこんで以来、わたしは自分が奇妙なしかたで抽象化されてしまったことに気づいていた。わたしはめったに笑わなくなり、一定の筋みちをたててしゃべり、まれに笑ったりするときには一定の健全さでそうした。かなしむということはなかったし、それはこの建物の中では非常にばかげたことだった。つまりこの《贅》と呼ばれているビルディングに一步はいると《現実》は異臭をもった粘液質の世界にかわり、大小の部屋は厚い

35

壁で区切りをつけられながらもかえってその壁を^{じんたい}靱帯にしてたがい^{たがい}に結合されているので、それは暑苦しい空気をつまんだ細胞の集合体といった印象を与えていた。わたしはそのときもその細胞のひとつにはいりこみ、わたしのまわりで、《学生》がめいめいの仕事をしているのを無視してあなたと話しあっていたのだ。わたしはいつかこの部屋の印象についてのべ、ここの空気は異常であり濃密すぎるが、どこか抽象的なのだといったことがある。しかしあなたは若干の質問をしたのち、わたしの印象を否定した。

(倉橋由美子『バルタイ』一九六〇年)

(注) 倉橋由美子 (一九三五―二〇〇五) 小説家。代表作に『バルタイ』、『暗い旅』などがある。

バルタイ 党。党派。日本では、特に共産党を指して言った。

靱帯 骨格の各部分をつなぐ繊維性の組織。関節を強固にしたり、その運動を抑制したりする働きがある。

1 (b)

コバルトの鯨

傾いた塔のような午後、
それはすなわち
木々の葉裏がいつせいに輝いて
影が海へ落ちる時
5 影がうねると
コバルト色の鯨が現われて
海草をわけるように
南下をはじめ
後世になると それは
10 「神話的」光景と呼ばれるが
象徴のないところでは
神話は、まだ現在にすぎない
地球は太陽に近すぎて
地表は「過剰さ」にみちている
15 なかでも異様な「生命」が
空腹を満たせるほどには。
少年は無欠の金属、
オルハルコンのごとき物をひろい
短刀を鍛え上げる
20 紅色に輝く刀身は
闇夜には松明となって
行方を照らすだろう
アドレスというものが無いので、
どこに行っても そこが行方で
25 それほどまでに
地表は広がった

きとしゆり
(城戸朱里『地球創生説』二〇〇四年)

〔注〕

オルハルコン アトランティス伝説によれば高度な文明をもった大陸では、
オルハルコンという完全無欠の金属が使われていたという。
手塚治虫の漫画やアニメにも登場。